

11月の農作業管理

指導販売課

柑橘

秋肥の施用がまだの方は早めの施用をしましょう

1. 腐敗防止剤の散布

出荷先での腐敗果の発生は価格低下の引き金になります。
8月の日照不足、大雨により、果皮の状態が弱いと考えられます。
腐敗防止剤の散布は必ず行って下さい。

時期	品種	薬剤名	対象病害
11月 中旬	普通温州 高糖系	ベフトップジンフロアブル 1,500倍	青かび病、緑かび病、軸腐病、黒腐病、 こうじかび病、炭疽病
12月 月上旬	宮内伊予柑	{ ベフトップジンフロアブル 1,500倍 マデックEW 2,000倍	青かび病、緑かび病、軸腐病、黒腐病、 こうじかび病、炭疽病 へた落ち防止
	その他中晩柑	ベフトップジンフロアブル 1,500倍	青かび病、緑かび病、軸腐病、黒腐病、 こうじかび病、炭疽病

●ミカンハダニの発生に十分注意をしましょう。

発生した場合（応急防除） スターマイトフロアブル 3,000倍又は
カネマイトフロアブル 1,500倍

●カメムシ・アザミウマ類（ハナアザミウマ）の被害がみられる場合
ダントツ水溶剤 4,000倍

●マデックEWは収穫開始予定日の20～10日前に散布して下さい。

2. せとみの管理

◎夏秋梢の処理

- 来年度結実予定の樹の夏秋梢は処理しないでそのままにします。
- 10月に誘引できなかった樹は来春誘引をして樹勢の安定を図ります。

◎腐敗防止剤の散布（袋掛け前）

ベフトップジンフロアブル 1,500倍

◎袋掛け

- 腐敗防止剤散布後、袋掛けを行って下さい。
- 11月上旬から12月5日までに実施し、小玉果（61mm以下）、キズ果は摘果をしながら袋掛けをして下さい。
資材・・・防寒対策・・・2重袋（オレンジ14号等）
サンテまたは1重袋の被覆はヤケ果を助長するために使用しない。

◎秋肥の施用

- 10月下旬～11月上旬** 年間施肥料の20%
成木で柑橘有機配合1号・・・4袋/10a当り

3. 秋肥の施用

花芽分化の促進や耐寒性を高めるため秋肥を十分施用しましょう。
地温が低下すると根が養分を吸収しにくくなります。11月上旬までに秋肥を施用し、施用時期が遅れないようにしましょう。
(基準量は栽培カレンダー 37ページを参照下さい)

キウイフルーツ

採収	11月中下旬頃が適期。初霜前に収穫する。 糖度が6.5～7度を採収の目安にする。 収穫は果実温度の低い午前中に行う。 貯蔵中に一果でも腐敗果があると他の果実の軟果を早めるため、ロブール水和剤1,500倍を採収前に散布しましょう。
貯蔵管理	採収後はポリ袋に入れて低温貯蔵しましょう。常温貯蔵する場合は温度上昇のない場所で20個程度ポリ袋に入れて貯蔵しましょう。 貯蔵開始1～2ヶ月は定期的に点検し、軟化果、腐敗果の除去を徹底しましょう。
元肥の施用	5年生以上で1a当り「柑橘有機配合1号」を10kg程度施用しましょう

野菜

タマネギ	極早生、早生種は11月上中旬、晩生種では11月下旬に植え付けを行ないます。 前日に苗床に充分かん水しておいてから採苗しましょう。 苗は、長さ20cm、鉛筆ぐらいの太さ(6～7mm)の、のびのびとしたものを選びましょう。苗が大きすぎると春にとう立ちし、小さすぎると肥大が悪くなります。 畝は4条植えにし、条間25cm、株間10cmとします。 深植は小玉の原因になりますので2cm程度の深さに植えましょう。
エンドウ	《播種》播種時期は11月上旬です。株間30～40cmで3粒ずつ播種し、覆土が2～3cmになるようにしましょう。 《支柱立て》播種の際、同時に支柱を立てておきましょう。
ハクサイ	《追肥》11月上旬にくみあい園芸苦土A801を一株あたり一握り施用しましょう。 《防除》ハクサイはヨトウムシの防除がポイントです。結球前に <u>フェニックス顆粒水和剤 2,000倍</u> を散布しましょう。